

ミレニアム開発目標(MDGs)とポストMDGs

2013年3月 外務省地球規模課題審議官組織

ミレニアム開発目標(MDGs)

2015年までの国際開発目標

- 「国連ミレニアム宣言」などを基に、2001年に策定。
- 貧困削減、初等教育の普及、乳幼児死亡率の削減など、8つの目標、21のターゲット、60の指標。

強み＝単純・明快・期限付きの数値目標

- 例：2015年までに極度の貧困を半減(MDG1)



一定の成果。しかし、引き続き課題は大きい。

- 極度の貧困半減、安全な飲料水へのアクセスなどの目標を達成。
- 他方、教育・母子保健・衛生などは、現状では達成困難。
- 地域では、サブサハラ・アフリカ、南アジア、オセアニア（島嶼国）で達成に遅れ。

日本の取組

保健・教育分野の新政策とコミットメント(2010年)

- 保健：母子保健、三大感染症、国際的脅威への対応
2011年からの5年間で50億ドルのコミットメント
- 教育：基礎教育、ポスト基礎教育、脆弱国への支援
2011年からの5年間で35億ドルのコミットメント

MDGs達成に向けた国際的モメンタムの強化

- 2011年6月MDGsフォローアップ会合（於：東京）
- 2011年9月MDGs関連閣僚級非公式会合（於：NY）

ポストMDGs (Post-2015 Development Agenda)

【政策目標】

日本の強みを活かしつつ、効果的な次期枠組みの策定を主導し、日本の国際プレゼンスを向上

国連における動き

- ポスト2015年開発目標に関するハイレベルパネル：
潘基文事務総長の諮問委員会。2013年5月末に報告書。
(共同議長: キャメロン英首相, ユドヨノ・インドネシア大統領,
サーリーフ・リベリア大統領)
- 国連横断タスクチームの結成, 事務総長特別顧問の任命
→ 国際機関との連携強化が鍵。

日本の取組

ポストMDGsコンタクトグループ

- 非公式かつ自由に意見交換を行う日本主導のグループ。
2012年9月, 議論の現状をハイレベルパネルに提出。

2012年国連総会においてサイドイベントを主催

- NGO, 研究者, 民間財団など幅広い関係者とハイレベルパネルのメンバーが参加。

2012年IMF世銀総会(東京)においてサイドイベントを主催

- キム世銀総裁, 田中JICA理事長等が参加。

ポストMDGsの主要課題

◆ 現行MDGsを基礎とし、その経験と教訓を踏まえる。

- **簡素・明快さ**を保つ(目標の整理・統合も)。
- **貧困撲滅**を中心に。
⇒ 野心的かつ動員力のある目標策定を主導。

◆ 成長・雇用に光を当てる。

- 成長・雇用は**富を創出**する源。
- **質の高い成長(グリーン・包摂的成長)**を目指す。
⇒ 日本の技術の活用。

◆ 国内格差の拡大に目を向ける。

- 世界の貧困層の約4分の3が中所得国に居住。
- **衡平性・包摂性**が鍵。
⇒ 日本企業の進出先であるアジアも重視。

◆ この10年間の国際社会の変化に対応する。

- **人間の安全保障**を指導理念の一つに位置づける。
- 保健、教育等の主要分野で課題・指標を改善。
- 防災、持続可能性、食料安全保障・栄養など
新たな課題に対処。
- **民間セクター**の関与。**新興国**、**NGO**などの役割。
⇒ 日本らしい支援と新たなパートナーシップの確立。

◆ 途上国自身の努力(オーナーシップ)を推進する。

- ガバナンス強化・途上国内の資源の動員の促進。
⇒ 開発効果の向上。脆弱国にも配慮。